

数学科教育法IVの授業評価

所属講座：数学教育 氏名：藤本義明

1. 授業の概要

数学科教育法IVの受講者は、教育学部生16名である。授業内容は、高校数学の指導についての講義とグループでの研究・発表の2つである。

2. 評価方法

授業の評価は、アンケート調査によって行った。質問項目は以下の7つである。

『講義について』

問1：私は意欲的に取り組んだ。

問2：内容のレベルは私にとって難しすぎた。

問3：テストが無いのは物足りない。

問4：附中の先生の授業が削減されることはやむを得ない。

問5：講義についての感想・意見など

『研究・発表』について

問1：私は研究・発表に意欲的に取り組んだ。

問2：研究内容のレベルは私にとって難しすぎた。

問3：研究・発表の授業数は少なすぎる。

問4：授業外で研究に費やす時間は負担である。

問5：研究・発表についての感想・意見など

問1～問4については、以下の数値から選択

5：全くそう思う 4：少しそう思う

3：ふつう 2：あまりそう思わない

1：全くそう思わない

問5は筆記で回答させた。

3. 結果

	問1	問2	問3	問4
講義	3.9	2.9	2.1	2.7
研究発表	4.1	2.4	2.4	2.8

4. 分析

<講義について>

高校数学の指導は本年度からの内容であり、これまでの中学での指導と比して難しく感じていないか懸念があったが、ふつうという反応であった。

昨年度まで、この授業ではテストをしていなかったもので、本年度もそれを踏襲した。学生の反応はやはりテストは好まないというものだった。

附中教員による授業は今後縮小していかざるを得ない状況であるが、この点の学生の反応をみると、数値的には顕著ではないが、筆記の回答において、縮小してほしくないという意見が目立った。来年度以降の参考にした。

筆記の回答としては、高校数学の指導に新鮮味を抱いている回答が目についた。

5. 「授業時間外学習」の促進

本授業の研究・発表は、学生が授業外で自主的に調べる活動が主である。したがって、研究・発表のアンケート調査は授業時間外学習の評価を表している。それをみると、学生は講義以上に意欲をもって取り組んでいる。また、内容の難易や取り組む時間数について、おおむね満足できるものとなっている。筆記の回答では、「いろいろな角度から数学について眺めることができ有意義だった」、「研究内容の習得だけでなく、発表の仕方やうまく伝えるための工夫なども考えることができた」、「それぞれが研究したものを持ち込んで共有し合う時間は貴重な時間であった」など、授業時間外の学習を、おおむね生かしていると考えられる。